

男鹿山塊

箒川シラン沢

大田原

【日時】 2014年6月20日(金)

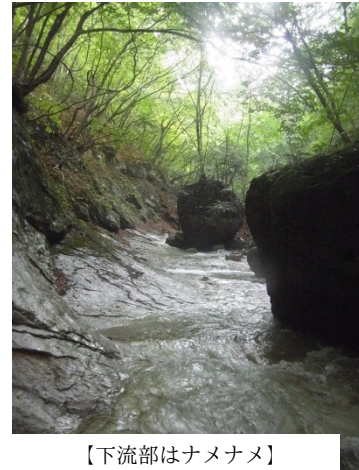
【メンバー】 大田原

日留賀岳に登ってみようと思い、登山大系を開いた。日帰りでおもしろそうなシラン沢を登路に選んでみた。源頭は「ほとんどやぶこぎなく…」という記述を信じて。

そこそこ距離が長いので早めに出発する。体力の低下か体が重い。登山道から小さな尾根を乗越してシラン沢へ下りる。なんとここで一雨。「だるいし帰ろうかな～」なんて思うが、雨はすぐにやんでしまった。すぐにひよんぐりの小滝。左岸の泥ルンゼから小さく巻く。2段12m滝は釜の右をへつりそのまま右端から水流を浴びながら

登る。上段は左へ移って越えた。しばらくは堰堤を越えたり、雰囲気の良いナメ地帯を歩く。最後の堰堤を越えてからは岩が滑るようになる。川原状を歩くと、古びた架線やそれにぶら下がった鉄籠、コンクリートでできた小屋の土台が現れる。造林小屋？炭小屋？と思いながら歩を進める。小滝をいくつか越えるとまもなく、シラン沢の核心とされる不動滝(2つの滝のどちらを指すかは不明)。一見、登れるのかな??という感じだが、1つ目の3段10m滝の下段2つは左端、シャワーで右へ渡り上段は右から登れた。岩が順層なのでガバが多いものの、滑るので一人だと緊張する。すぐに2つ目8m滝、左の階段状を滝が垂直になるところまで登るが、スタンスにしていた大きめの岩がゴロリと抜け落ちた…。ヒヤリ。滝の落ち口までは岩のバンドがスタンスを提供しており、ここから行けるかと思ったが、不安に思って手でバンドの岩をゆするとグラグラ動いた。…やめた。左手のルンゼ状をワンポイント登り、笹を掴んで小さく巻いた。

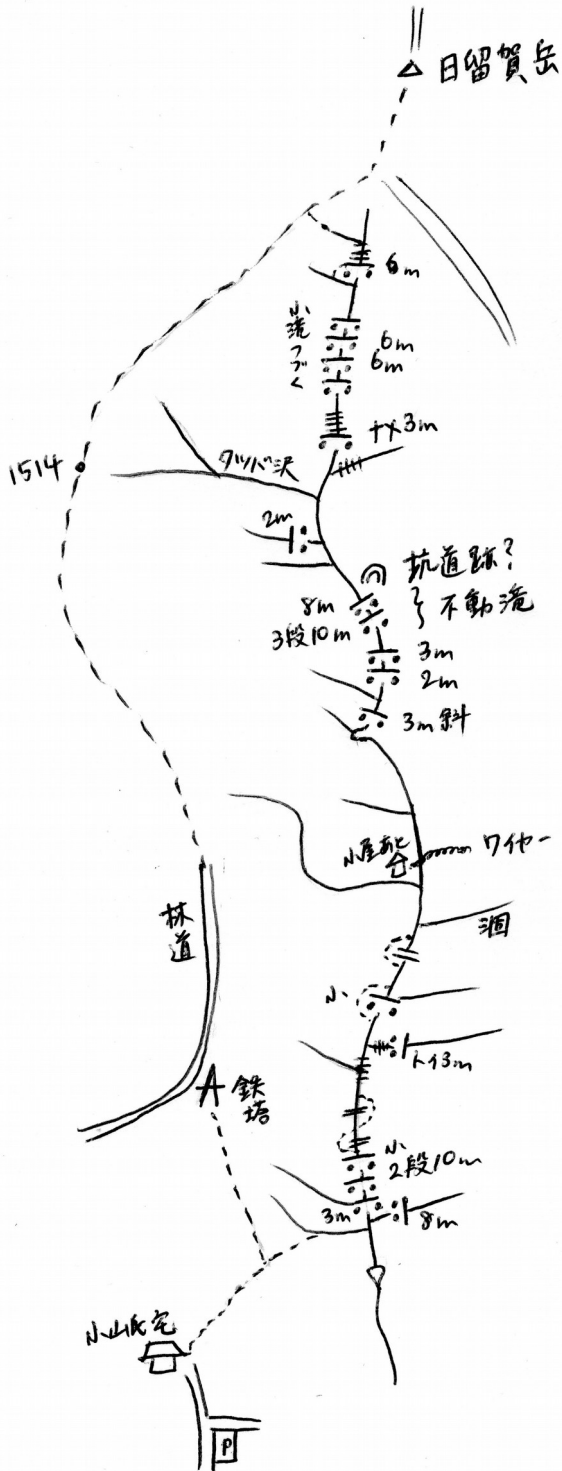
滝を越えてすぐ、ふと右手を見ると明らかに人工的な岩屋が。覗き込むと木の支柱があり、奥は暗くて深さは分からない。そうか、坑道か～、と先ほどの人工物の謎が解けた。帰宅してから調べると、シラン沢で採掘が行われたことがあったようだ。タツバ沢を分けるとひたすら高度を上げるようにプチ連瀑となり、沢が奥壁のような笹斜面に吸い込まれるところから左のル



【下流部はナメナメ】



【不動滝入り口】



ンゼに入る。すぐに割と密な笹藪となり、よけいに歩行速度が落ちる。大系のウソツキ。そして何と雷雨に。さらに首元に刺すような痛み。そしてそれが徐々に背中を下へ伝って続いていく…。どうやら襟から虫が入ったらしい。背中のあちこちが痛痒くてしょうがない。トホホ…。藪・雨・虫の三重苦に耐え1時間ほど藪を漕ぐと、雨も上がり、ようやく登山道に飛び出した。

【行程】 小山氏宅(6:50)～入渓点(7:15)～登山道(13:05)～日留賀岳(13:30)～小山氏宅(15:55)

【グレード】 1級上

【地図】 日留賀岳、塩原



【坑道??】